

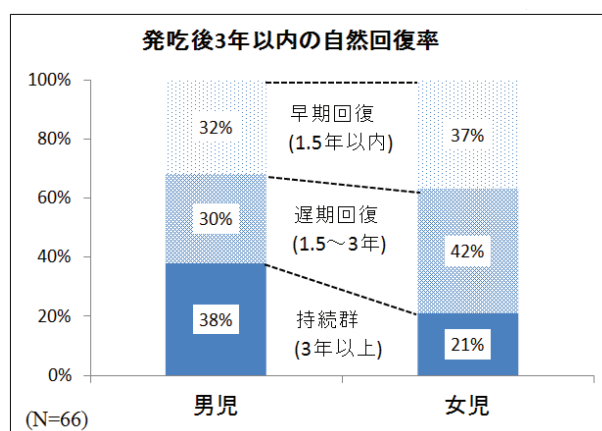
幼稚園・保育園の先生へ

吃音症（どもり）について

吃音（きつおん）は2～4歳に5%（20人に1人）の割合で発症しますが、約4割の子が3歳児健診以降に発症する。そのため、幼稚園・保育園の先生が相談される機会が多いでしょう。発症後4年で、74%の子が自然回復するが、吃音の家族歴がある子、男の子は回復する確率は減る。親の育児方法や園の接し方が発症の原因ではない。吃音は言語の発達過程で生じてしまうものであり、世界中同じ割合で発症しているのである。新学年、新学期には吃音の症状が一旦増えるが、時間とともに軽減することが多い。幼稚園・保育園の先生に一番してほしいのは、子どもたちへの吃音の説明や、吃音の真似している子がいたら止めさせてほしい。歌や2人で声を合わせると、どんな子でも吃音は消失する。

吃音の進展段階

	吃音症状	心理的な負担
第1層	・お、お、お、おかあさん（連発） ・お——かあさん（伸発）	小 ↓ 大
第2層	・……おかあさん（難発） ・顔や首に力が入る、手や足でタイミングを取る（随伴症状）	



先生ができること	<ol style="list-style-type: none"> ① 吃音のからかいをやめさせる（少しの真似でも、傷つきます） クラスで吃音のからかいがあったら報告させる。 ② 話すのに時間がかかっても待つ。 ③ 話し方のアドバイスをしない（ゆっくり、深呼吸して、落ち着いて、など）→効果がなく、逆にプレッシャーになります。 ④ 2人で声を合わせて話すと、吃音が消失することを知っておく。
----------	--

吃音の説明ロールプレイ

先生「○○くんは、ことばを繰り返したり、つまったりすることがあるけど、それを真似したり、からかわないように。もし真似する人がいたら、先生まで教えてね」
 幼児「なんで真似してはいけないのですか？」
 先生「わざとやっている訳ではないから」
 幼児「うん」とうなづいたら、ほめてあげる。

先生の一言が

非常に効果があり、
子どもは助かります。